わかものの力を結集して
安保合理化粉砕へ
高松で青年婦人決起大会

さる六月二十五日、日炭高松で「政暴法粉砕、池田内閣打倒、安保体制打破、合理化反対福岡県青年婦人総決起大会」がひらかれた。この大会には福岡県下をはじめ佐賀、山口、熊本、宮崎の仂く若い仲間約三千五百人があつまつた。三池労組からも行動隊、婦人部の代表三十名が参加した。

三池からも30名参加

大会には、炭労、自労、国鉄、全逓、八幡製鉄労組、教組、西鉄労組などの青年、婦人部、社青同、民青など百十七団体が参加し、大牟田地区からも三池労組の二百名をはじめ民青、社青同、民青など百十七団体が参加し、うたごえからパス三台をくり出して約三〇〇名が参加した。

県総評、社共両党、日炭高松労組代表のあいさつをうけたあと、社青同、民青代表から〝五・七と六・四の二つのアピール、宣言を働く若者たちの手で全国にひろげ、統一の火をたかくかかげ、統一をひろげよう〟とたたかう意が表明されたあと、安保破棄の福岡県青年婦人アピールを採択し大会終了。後「高松のうたごえ」にはいつた

六・二五青年婦人アピール

炭労日炭高松支部と、中間市・遠賀郡安保共闘会議は今回の合理化が、新安保条約を中心とした全面的な反動政策の一環であり、これと闘うためには全民主勢力が、この政策を危機におとしいれ、安保体制を打破する闘争のために統一することが緊急に必要であると考え、全民主勢力の統一と共闘を呼びかけた。

五・七、六・四集会に結集した労働者、農民階級はこのアピールにこたえ、いまや統一と共闘の火は全国に広まりつつある。

全国の青年婦人諸君

池田内閣と国家独占の政策は、すべての国民の利益と要求に反するものであり、これに対する人民の攻撃は日ごとに強まり、三池と安保で闘つた人民の闘魂は再び燃えはじめた。

全産業、農村に働く青年婦人にわれわれは呼びかける。

炭労日炭高松支部にかけられた合理化攻撃をハネ返すための闘いは日本と世界の独占資本、帝国主義と闘わなければならない。この目標に向つて日本の全産業にわたり攻撃されている労働者が、意志を一つにするならば、勝利の保障があるだろう。

とりわけその中に占める青年婦人労働者の地位は重要である。日本独占の低賃金政策の土台にされているのも青年婦人であり、これを打破する闘いも強化しなくてはならない。全国の青年婦人労働者は青年の未来と、希望あふれる職場を築くため、いたるところに統一と共闘を組織しよう。

全国の青年婦人諸君

六・二五集会に結集した福岡県下の青年婦人労働者は諸君に呼びかける。

われわれが持てる力量を最大に統一闘争へ発展させる役割を青年婦人が果そう。

われわれが統一すれば、安保体制も打破できるし、合理化の粉砕も可能になるであろう。

この二つの闘いを柱に、勇気と確信をもつて統一闘争に立ちあがろう。

いたるところに

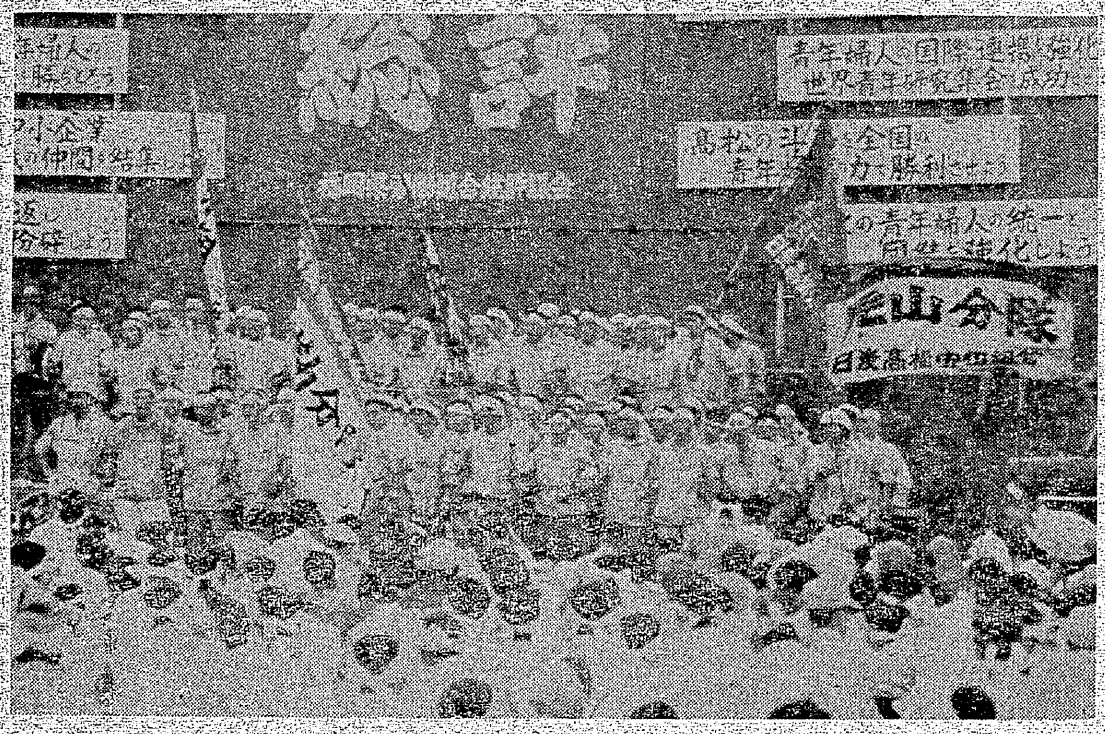
青年婦人の統一を！

六・二五青年婦人大集会万才！

一九六一年六月二五日

安保体制打破・合理化反対

福岡県青年婦人総決起大会



若さと熱があふれた青年婦人決起大会

組合幹部七名に解雇
三池からも現地激励

〝ワンマン社長退陣〟を要求して賃上げと完全雇用の確立のためにいきをすすめている石原労連の仲間にたいして、本紙前号で既報した三川支部小浜北地域分会、主婦会では、カンパ活動をおこし激励をかねて集まつたカンパ金を持参し、六月十八日石原労連へ二名がかけつけた。

石原労連では六月二十日、大阪で大集会とデモをひらいたが、この集会へ小浜北の葛西、中島さんをれに本部の山田滋対部長が参加した。

この大会のあと葛西、中島さんは中央執行委員会に出席しであいさつ、座談会をおこない、二十一日はひきつづき四日市化学工場、二十二日紀州鉱業所組合本部、二十三日妙法組合、二十四日柳倉労組、二十五日主婦会とそれぞれ座談会をひらき、三池の実情を語り、石原の話を聞き、意見を交換した。

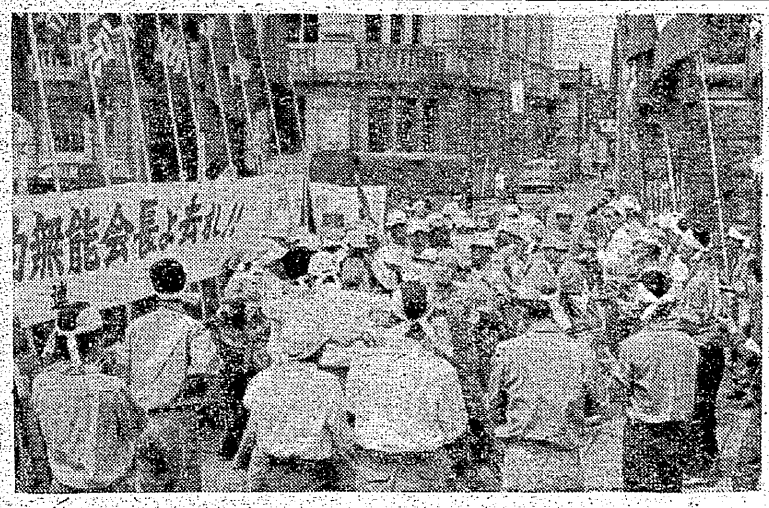
石原労連（大阪本社、東京、名古屋、福岡各支社、四日市化学紀州鉱山＝二、八〇〇名）では会社全体の闘争にするためには社長のトラの子「管理職」、三池でいう部課長級までをいかにして闘争の中に入れて、共闘が組めるかということで、完全雇用で共闘を申入れた。

社長のワンマンぶりは相当なもので、労資の協定や組合との約束は何回となく一方的に破つたり、数回も大量首切りをしている。これには管理職も反対していたので、ワンマン社長退陣闘争として今回の闘いがすすめられたのである。

ところが大阪本社労務部長ら九名の処分、首切りが言い渡されたので、石原全体の経営者たちが「管理職協議会」という組織をつくり、石原労連と共闘をすすめている。

石原労連では社長の〝組合ふつふつ〟の宣言に対して、長期決戦の体制をとつて強力な闘いをすすめているが、三池から激励かけつけた激励とカンパに対して、同組合の機関紙「せきれん」では、三池の仲間たちのあたたかい友情に対して、この闘いを勝ちぬくことによつてこたえようと掲載し、決意を述べている。

おいこめられ迷つた会長は、二十六日〝違法ストをやつた〟ということで、石連三役、単組委員長級の組合幹部七名に懲戒解雇を申入れてきた。民間労組の争議中、全主要幹部の首切りということは大企業では殆んど前例をみない暴挙であり、そのワンマンぶりがうかがわれる。組合では六月三十日七月一日に全面二十四時間ストに突入、完全対決段階に入つた。



強力な闘い進める石原の仲間たち

殉職すでに八名
吉田さん三川鉱で死亡

文字通り全く変災が相ついでいるのが、六月十一日に宮浦鉱での二名、一名が殉職のあと、こんどは三川坑で殉職した。

六月十九日午後五時十五分ごろ、三川鉱坑外ボタ捨場で、ボタ返しのためダンプカー操作中の外運工吉田正義さん（41・三池労組員）は炭函巻機（50KW電気ショベル改造）のつり上げチエーンが、ダンプカーにひつかかり転覆しその下敷きとなつた。

このため肺臓損傷の重傷をうけ、重傷後死亡された。

ことしに入つてから殉職者は八名を数えるにいたつている。

出炭上昇で会社は喜色をみなぎらせているかしれないが、その反面いつだれにくるかわからない死の犠牲がわれわれを脅つている現状である。

このため肺臓損傷の重傷をうけ、重傷後死亡された。

組合では、三川鉱で変災のおきる数日前の十四日に保安確立のための抗議集会を行なつたばかりである。人命を無視した出炭増強については、これまでわれわれはあらゆる機会をとらえて会社に抗議をつづけてきた。会社の誠意がどこにあるのかわれわれは大きな怒りを感ずるものである。

保安確立はわれわれ炭鉱労働者にとつては生命の問題であり、それゆえ一日としてゆるがせにできないものである。

われわれの職場を安定したものにし、家族を不安から解放するためにも、ねばり強いたたかいをつづけよう。

敬弔

去る十九日、三川鉱でダンプカー転覆により殉職された同志吉田正義さんの霊にたいし、謹んで哀悼の意を表します。

三池炭鉱労働組合
三池炭鉱主婦会

第三者前線にたて
人工島強行入坑

三十五年三月二十八日

前出さんが負傷したおなじ日の夜、四山から緊急情報が入つて、またニュースカー出動とふつたのであるが、おぼえばその27・28・29の三日が、会社＝第二組合＝側である。

カ団と、おなじ総資本の隊列にある彼らが、この三池に集中した総労働の鉄桶の陣にたいして、真正面からーじかも手段をえらばずーつまり、あとは政府と警察が引きうけるからーという日本総資本のバック・アップで対決を挑んできた、この闘争のひとつのヤマであつたといつていいようである。

その夜、三池全般にわたつて、彼らのうごきが異常に見えたので四山支部では南北両闘の固めについた。その隙に彼らは三井鑛設など争議に全然関係のない連中を動員して、手薄な人工島を占拠、有刺鉄線で柵をめぐらして、人工島からの入坑を強行しようと図つたのである。

私たちが駆けつけたときは、双方対峙したまま火をたいていたが、その焔が夜海に映じて揺れ、一種壮な風景を描出していた。

彼らの方では、事前にちやんと海上保安庁の方へもわたりをつけていたとみえ、保安庁の艇で保護されながら、長洲あたりから乗船した格好で、切歯やく腕しょがらみすみす彼らの不当入坑を見送らざるを得ない状態であつた。

そのせりあいで、かなり怪我人は無数に出た。その日あたりからわれわれの側は、もう鉄帽で装備しなければ、どこのビケにもつけされる。

「どうしますかツ？」

「突破できないかな」

「青竹持つてますからね」

「大変なことになつているようだが、残念だが、いま「はたかぜ」をこわされちゃあ、いくさは出来ないからね」

クラクションを鳴らして、強引に後退しはじめた。くすぐすしていたら、どんなことになるか分らぬ、異様な気配がそこにあつた。

（述＝岡本、記＝加藤）

〔おとなの童話〕
〝はたかぜ〟物語 (12)

せ参じてくれたので、私たちは一応本部にひきあげることになつたが、三川のスワ橋ちかくにたどりついたときおびただしい警官隊の交通しゃ断にぶつつかり立往生していると、アツという間に、一様に顔面蒼白にひきつつた、手に手に青竹などを持つた異様な群衆に取巻かれてしまつた。たしかめるまでもなく第二組合員であつた。

四山にいて全体のうごきを把握していなかつた私たちは慌てた。岡本さんと敵官担当者との間に、緊迫したみじかい言葉が投げかわされる。

「どうしますかツ？」

「突破できないかな」

「青竹持つてますからね」

「大変なことになつているようだが、残念だが、いま「はたかぜ」をこわされちゃあ、いくさは出来ないからね」

クラクションを鳴らして、強引に後退しはじめた。くすぐすしていたら、どんなことになるか分らぬ、異様な気配がそこにあつた。

（述＝岡本、記＝加藤）

各支部の行事

【宮浦支部】
二十日　うたごえ練習
二十三日　〃
二十五日　単車、弦歌、釣、登山サークル結成

【四山支部】
十七日　ギター部課練習
十八日　ホークダンス部練習
二十五日　宏田公園で写真サークル撮影大会

【三川支部】
二十日　うたごえ練習

【潜勢支部】
十九日　連珠サークル職場対抗大会を開始
二十日　うたごえ練習
二十四日　職場対抗ソフトボール大会（二十五日まで）

【本所支部】
二十三日　うたごえ練習
二十三日　囲碁サークル練習、指導会
二十五日　地域で金魚部珍魚配布
盆栽部の講習

お知らせ

六月二十五日発行の「みいけ」は都合により、七月二日発行（第六七八号）と合併発行しました。大変ごめいわくをかけましたことをおわびいたします。

【原稿依頼について】最近、職場、地域からの原稿が少くなつていますので高敷くご協力願います